

2016年  
10月21日

金曜日

《埼玉経済面》

許諾番号300051603 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。  
©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。  
日本経済新聞社は、記事内容により、特定の企業・団体や商品・サービスの購入・投資等を推奨するものではありません。

埼玉県川越市や周辺の若手経営者らがつくる「川越style倶楽部」は28日、イタリア・フィレンツェで県産品をPRするイベントを開く。イタリア国立料理学校の生徒らに、欧州野菜を使った料理や埼玉名物を紹介。ひな人形のアンテナショップも開く。欧州への輸出拡大の足がかりにするほか、観光誘客にもつなげたい考えだ。

日本とイタリアの国交樹立150周年を記念した事業。同倶楽部の日足

## イタリアで県産品PR

料理・ひな人形・地酒…



好春代表が社長を務めるやきとりチェーンのひびきや麺類販売の翁の郷

フランスなどでも日本文化のPRに取り組んでいる

（蓮田市）などが参加する。国立料理学校2カ所で、味噌だれを使ったやきとりや武蔵野うどん、地ビールや地酒を授業の一環として紹介する。埼玉県で採れる欧州野菜を使った料理も紹介する。さいたま市の若手農家で構成する「さいた

## 川越の経営者ら 輸出拡大めざす

まヨーロッパ野菜研究会」の協力を得て、県内で生産しているバジルやルッコラ、根菜のゴルゴといった野菜を使い、蒸し野菜などを味見してもらう。イタリアでもよく食べられている食材を使っている日本に親しみをもち、もう一つ狙いだ。

同倶楽部の会員企業で、ひな人形など日本人形販売の泰玉スガ人形店は同日、ひびきのフィレンツェ店内にアンテナショップを開く。同店では既に地酒や書道作品とい

つた県産品を紹介するコーナーを設けており、さらに人形やこいのぼりなど300程度を展示・販売する。日本人形の知名度を高めるだけでなく、日本文化に興味を持ってもらう。

同倶楽部はこれまで、2007年の米ニューヨークを始め、中国やシンガポール、仏などで県産品をアピールするイベントを開いてきた。日本文化を紹介し、会員企業が海外で販売するきっかけをつくるのが目的だ。